

平成28年10月15日

発行人 長野県民生委員児童委員協議会連合会
会長 伊藤 篤志

編集人 編集委員会
委員長 熊井 文弘

〒380-0928 長野市若里7丁目1番7号
(長野県社会福祉協議会内)

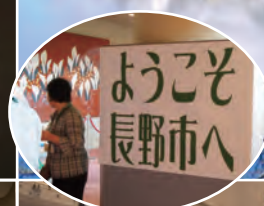


「民生委員児童委員100周年」
シンボルマーク

Nagano

特集

第23回 長野県民生委員児童委員大会報告



戸隠鏡池



真田邸(松代)



Contents

特集 第23回長野県民生委員児童委員大会報告

- ◆1日目 式典&記念講演 2~3
~民生委員制度創設100年の歩みと
これからの民生委員・児童委員活動~
- ◆2日目 シンポジウム 4~6
災害に備える民児協活動と
災害時での民生委員・児童委員活動
- ◆長野市スタッフ・参加者ピンナップ・受賞者インタビュー ... 6~7
- ◆被表彰者紹介 8

第23回 長野県民生委員児童委員会大会報告

第1日目

式典

9月1日、2日と、長野市で第23回長野県民生委員児童委員会大会が開催されました。この大会は、3年に一度、一斉改選の年に行われます。今回は民生委員制度創設100周年を記念した大会でもあり、県内各地から約1000名の民生児童委員が参加。真田丸にわく松代のある長野市のホクト文化ホールで、もっとも人数の多い長野市の民生児童委員が会場準備からご案内、合唱披露など、残暑の厳しい中、参加者をもてなしました。参加者の感想を含め、2日間の様子を紹介します。



▲伊藤会長



▲加藤市長



▲阿部知事

長野市長、知事の激励に感謝

主催者代表として伊藤篤志会長より、冒頭で「来年は民生委員制度が始まって100周年を迎える。社会の課題の変換期でもあり、ますます民生委員の活動が活発化している」と話しました。高齢化という社会構造の変化、人間関係の希薄化、支援が必要な人の増加、こどもの貧困や虐待、障がい者や認知症への理解、振り込み詐欺の被害など数多くの課題を上げ、特に国レベルでの子育て支援などの法律改正についても触れました。更に、近年の県内の災害、熊本地震で被災された民生児童委員への寄付についても説明しました。「課題や経験を共有し、200余名の委員が志を一つに実りある活動を」と訴えました。

加藤久雄市長は、「75歳以下はまだまだ若者と考えると高齢化率は14%以下となる。自分のため、地域のためにぜひ力を」とエネルギーギッシュに挨拶し、会場からは笑いと拍手が湧き上がっていました。続いて阿部守一知事は手話で自己紹介をし、「手話言語条例を制定した。障がい者が活躍し一緒に暮らせる地域づくりを」「人生」「毛作社会づくり」にぜひ協力頂きたい」と強調。民生児童委員の増員についても触れ、「市民に寄り添った活動をお願いしたい」と述べました。

民生委員制度は、濟世顧問制度創設から100周年を迎えます

※以下全民児連ホームページから引用 (<http://www.2shakyo.or.jp/zenminjiren/>)

民生委員制度は、大正6年に岡山県で誕生した「濟世顧問制度」を始まりとします。翌大正7年には大阪府で「方面委員制度」が発足し、昭和3年には方面委員制度が全国に普及しました。戦後（昭和21年）、民生委員令の公布により名称が現在の「民生委員」に改められました。この間、一貫して生活困窮者の支援に取り組むとともに、とくに戦後は、時代の変化に応じて新たな活動に取り組むなど、地域の福祉増進のために常に重要な役割を果たしてきました。



「民生委員児童委員100周年」シンボルマーク



▲大正7年に「方面委員規程」を築いたとされる小河滋次郎(おがわ しげじろう)博士の銅像が上田城址公園内にあります。全国の民生児童委員からの寄付で建てられ、上田市の民生児童委員が守ってきました。

- 1917(大6)年 岡山県にて民生委員制度の源といわれる「濟世顧問制度」が発足
- 1918(大7)年 大阪府にて「方面委員規定」公布
- 1928(昭3)年 「方面委員制度」が全府県に普及
- 1936(昭11)年 11月13日方面委員令制定・公布(全国統一の制度となる)
→施行は翌年1月15日、任期は4年
- 1946(昭21)年 民生委員令公布(方面委員を民生委員と改称)
- 1947(昭22)年 児童福祉法公布(民生委員は児童委員に充てられる)
- 1948(昭23)年 7月29日民生委員法制定・公布、即日施行、任期は3年
- 1977(昭52)年 「民生委員・児童委員の日」制定
- 1994(平6)年 主任児童委員制度の創設

160名4団体の盛大な表彰式

本年度の県民児連会長表彰の受賞者は後述のとおりです(受賞者氏名はP8参照)。永年勤続民生児童委員120名、同協議会会長16名、優良単位民児協4団体、感謝23名、領詞1名に表彰状が授与されました。



▲表彰の様子

同志社大学大学院教授

上野谷 加代子氏



プロフィール

同志社大学大学院社会学研究科教授。大阪市立大学家政学部社会福祉学科、同大学院家政学研究科社会福祉学専攻修了。研究テーマは地域を基盤としたソーシャルワークの展開方法(論)と教育方法。日本地域福祉学会会長、日本福祉教育・ボランティア学習学会前会長、社会福祉士養成校協会副会長、「広がれボランティアの輪」副会長、他市や全国で活躍。民生委員関連では「民生委員・児童委員の活動環境の整備に関する検討会」(厚労省)座長、平成26年に報告書。現在「民生委員制度創設100周年記念事業企画推進委員会」委員。モットーは「清く、正しく、美しく、そして朗らかに」。

民生委員制度創設100年の歩みと

これからの民生委員・児童委員活動

助けられ上手と助けられ下手

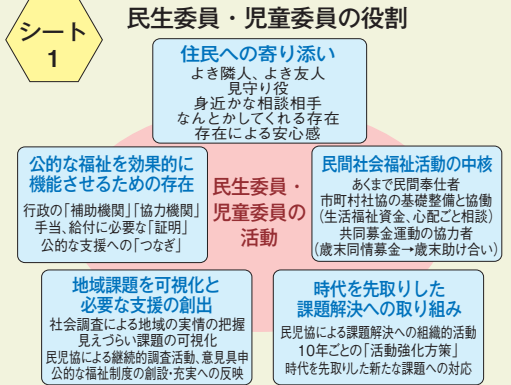
上野谷教授は、会場全員に「あなたは助けられ上手?」と聞くと多くの手が上がりました。一方「助けられ上手?」に手を挙げた人は少数でした。「両方手を挙げた人は成功」と切り出しました。

「女性は助けられ上手ですが、男性は助けられ下手」「一人で町内会に顔を出した夫が、誰にも話しかけてもらえなかった」というエピソードをあげました。「自分の弱さを知って相手に伝える『受援力』が大切。決して甘え上手ではなく、ここさえ助けてもらったら自立してやっていけること」とのこと。それには「小さい時から助けたり助けられたりする体験」を積むことが大事だと自分の経験を紹介。「助けられることを積み上げていくと、助けられることの快感がわかり、謙虚にならないといけない。人との関係も変わってくる。自分の家の24時間を人に知ってもらうこと」の大切さについて語りました。

海外にはない日本独自の制度

全国で約23万7千人、長野県内で約5、2000人の民生児童委員について「海外には説明できない特別職。」

民生委員・児童委員の役割



ボランティアなのに守秘義務を持ち、専門職と同等に職務をこなすのが民生委員。「平和な社会を作るべく100年努力してきた。ぜひこの制度の中身を充実させてい」と、力強く述べました。

人が生きていくための社会を維持するために5つの要素として「法律」「医療」「教育」「政治」をあげ、最後の「救うという行為」は遺伝的な行為。国民一人ひとりができるもので他を排除しないもの。「助け合い」の歴史は相互扶助から始まり、社会福祉は日本では第二次世界大戦後に始まった。つまりたった70年の歴史で、民生委員制度より後だということを変更して出席した民生児童委員に投げかけました。

岡山県で当時生活状況を調べたら半数以上の住民が食べられなかったのだそうです。そうした状況から済世顧問制度や、大阪府で方面委員制度が立ち上がってきました。

当時も個人の自立を念頭に置き、個人の支援と社会を支えるという二つが役割として書かれていて今と同じ。「法律に基づくボランティア」が100年にわたって続いていることを改めて強調し、「こうした貴重な制度を世界に発信すべきで海外の人は関心を持っている」と話しました。

子どもの貧困と食の重要性

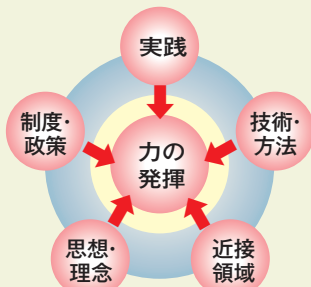
委員を取り巻く現状や役割(シート1)を説明する中で、滋賀県で委員が協力して行った「ひとり親家庭の調査」について、上野谷教授は「お金はあっても、食事を一人でとる子どもが多い。子供食堂の必要性が浮き彫りになった。他人と一緒に食べることで、作法などのしつけもできる」と指摘しました。またこうして困っている親や子どもの相談先として、近隣で自分のことをよくわかっていてくれる人という結果が出たことで、「民生児童委員の役割は大きい」と訴えました。また地域福祉の定義(シート2)を紹介した上で、自立についても「経済的自立」「精神的・文化的自立」「健康的自立」「生活的自立」「契約的自立」とわかりやすく5つに分けて説明しました。

最後に民生委員のこれから(シート3)として「実践あるのみ。制度や政策を追い風にして、今の流れを知った上で動くこと。理念や思想、ビジョンを持っていただくこと。『みんなで手を組んで、人任せにせず、自分でやれます』という自覚を持ってやってほしい」とした上で、「お互い助け上手の活動をし、お互い一緒に助けられ上手になりましょう」と会場の民生児童委員に呼びかけました。

地域福祉の(とりあえずの)定義

住み慣れた地域社会のなかで、家族、近隣の人びと、知人、友人などとの社会関係を保ち、自らの能力を最大限発揮し、誰もが自分らしく、誇りをもって、家族およびまちの一員として、普通の生活(くらし)を送ることができるような状態を創っていくこと。

民生委員・福祉関係者・住民のこれから



シート 2

シート 3

第2日目 シンポジウム

一テーマ

災害に備える民児協活動と
災害時での民生委員・児童委員活動

2日目のシンポジウムでは、1日目で講演を行った上野谷加代子氏をコーディネーターに、平成26年白馬村の神城断層地震、平成23年栄村の長野県北部地震、平成26年木曽御嶽山噴火の3つの被災地区の民生児童委員が、それぞれの災害の状況と、その時民生児童委員がどう動いたかなどをそれぞれ発表し、災害への対策について意見交換しました。その後、松代の民生児童委員が立ち上げて有志で活動する「松代オレンジキャラバン」による、認知症への理解を促す寸劇が行われました。



シンポジウム

- コーディネーター
上野谷加代子氏
- 実践報告者
篠崎 茂樹 氏
白馬村民生児童委員協議会
島田 哲 氏
栄村民生児童委員協議会
畑中 実祐 氏
王滝村民生児童委員協議会

シンポジウムの冒頭で上野谷氏は「多くの教訓を災害は残してくれた。阪神淡路大震災から20年以上たとうとしている。当時の学生ボランティアが、いまはもう50歳。継続して支援することの大切さを学んだ」と述べ、災害時というよりは災害に備えた日頃の民生児童委員活動をテーマに考えていきたいと思います」と切り出しました。その様子を要約して掲載致します。

実践報告者



篠崎 茂樹 氏
白馬村民生児童委員協議会

(つなぐ120号参照)

神城断層地震を経験して

私は、スキー場とは反対側の、三日市場地区に住んでいます。125軒が損壊しました。高齢者は80歳以上が13戸。震度6弱の地震に襲われ、特に2地区にわたって大きな被害が出ました。死者はいませんが、重軽傷者は20名を超えました。

11月22日金曜日、22時08分、私は自宅の2階で布団に入っていました。上下にすごい振動がきて、次に左右に大きな揺れを感じました。座ったまま身動きできないほどでした。停電し、天井裏からミシッガタツという音が聞こえてきて、もうダメかと思いました。月明かりでうつすらと辺りが見えてきて、タンヌも倒れ全てが散乱していました。1階に89才の父と85才の母を確認し、安心しました。ポータブルのトイレをそばに用意してとりあえず休むように言いました。外に出ると、灯油タンクが転倒し流出、サッシもすべて吹っ飛んでいました。

区長と組長に会い、まず見回りをしました。灯油タンクを閉めたり、プロパンガスの元栓を止めたり、ブレーカーの確認を一軒一軒して歩きました。すでに近所の方たちは避難しており、ガラスで顔を切った人、ぎっくり腰になった人などがいました。倒壊した家では消防が懸命に救出する光景が目に入りました。救急車はすべて出払ったため、各自で病院へ駆けつけるよう対応しました。現場では警察や人だかりもできていて、かえって邪魔だと思って、役場の隣の避難所の建物に行きました。高齢者や身体的な弱者も避難してきていました。朝5時前に一旦自宅へ戻りました。

翌日は、祭りで親戚や友人が駆けつけてくれて、ある程度片付けられ、寝泊りできる状態になりました。白馬村民児協会長が訪問してくださり「まずは自分のことをやってみてから」と声をかけていただいたので、気が楽になったのを覚えています。停電が開けた24日の朝、テレビを見て初めて全容がわかりました。

困ったことは、電話が使えなかったので、着信履歴確認とメールでしか通信できず充電できなかったことです。三日市場地区は毎日3時から役員会を11月30日までやり、毎日出席しました。断水は三日市場で30日まで、堀ノ内では12月10日まで続きました。役に立ったのは焼酎などが入っていた4リットルのペットボトルです。11月24日からはカレーなどの炊き出しが始まり、配食は12月10日まで3食続きました。ティッシュやタオルなどの物資も24日には届きました。ポイントは必要なものを用紙に書き込んでもらったこと、それから連絡事項等は、口頭だけでなく紙に書いて手渡して説明しました。

その後、仮設住宅への入居の手伝いやイベントにも積極的に参加しました。解体等専門家によるテクニカルチームの活躍もありました。社協では生活支援相談員2名が訪問して相談のついでに助かりました。

住民支え合いマップについては6月に区長などの役員と行っています。高齢者宅を地図に落としていたので、把握できていたことが役立ちました。災害時支援登録台帳も17名分作成していたので、緊急連絡先も確認でき、常備薬もわかっていたので、取り組んでいて良かったと実感しています。

日常、当たり前の生活が一番幸せなのだと思います。倒壊家は、去年10月、今年10月建築。村営住宅も今年中にできます。でも被災した人たちの心の傷は癒えていないと感じています。



実践報告者



島田 哲氏
栄村
民生児童委員協議会

(つなぐ105号参照)

栄村地震を経験して

平成23年3月12日の長野県北部地震への民生児童委員の対応についてお話しします。現在村営住宅もでき、前と同じ集落で暮らせていて、復旧しました。

栄村は日本有数の豪雪地帯です。冬季には3〜4メートルの積雪があります。秋山郷で知られ、美しい日本の里百選にも選ばれています。少子高齢化が進み人口約2千人87世帯250人が一人暮らしで、震災当時から現在人口が200人減っています。この春に栄村震災復興祈念館絆(きずな)がオープンしました。民生児童委員は13名で福祉委員にも任命されています。

3月12日の朝3時59分、震度6強の激しい揺れに襲われました。栄村の様相を大きく変えてしまいました。その後震度6弱が2回5弱が1回の余震がありました。明るくなり状況が見えました。真冬ですから、2メートルの積雪と、早朝で冷え込みが厳しく、外での避難は辛く長いものでした。小滝地区は道路がふさがってへりで避難しました。「なんでも何でも悔しい思いにかられます」

民生児童委員も被害に遭いました。内2人の自宅は全壊し、一人は村外へ避難し、一人



は体調不良で辞任し、隣の地区の委員が担当しました。栄村には絆があり、集落内の相互扶助の精神が日常的に行われていました。普段から集落すべての人の顔が見えます。区長も消防も委員も、日頃から住民の様子を把握しており、安否確認がスムーズでした。乗用車にのりして避難しました。震災当日死亡者はいませんでしたが、その後、避難所で体調を崩すなどして3名が亡くなりました。

避難所で自治が生まれた

地震発生の時間帯が深夜だったので、外出していた方がいなくて、最小限に被害を抑えられました。また被害が栄村に集中したため、近隣市町村からの支援が得られたことも大きかったです。前日の東北の震災で、住民に備えの意識があったこと。雪が多い地域なので家屋の構造もしっかりしていたこと。火を使う時間帯でもなかったこと。なども不幸中の幸いでした。ただし、農地に関しては47ヘクタールが打撃を受け、復旧に2年を要しました。

避難所の生活は7カ所に分かれ、1700人が避難生活をしました。足の踏み場もないほどでしたが、声を掛け合っただけで深まりました。近くの集落が同じ避難所に入ったのでダンボールで仕切ることもなく、和気あいあいと過ごせました。一番困ったのはトイレです。外のトイレが寒くて大変でした。自発的にトイレ掃除や配食など当番にし、自治が生まれました。若いお母さんたちがお年寄りの洗濯をしてあげるなどもしてくれました。支援物資も比較的早い段階で届きました。避難中には、消防が地域の見回りをしてくれたので、盗難被害は一件もありませんでした。定例会は5月の初めに開催でき、思いを共有しました。

現在の課題としては、高齢化が更に進み、集落自体の維持が困難になってきていること。安否確認、避難にどう対応するか。区長や消防団と協力しながらやっていきたいと思います。昨年11月にやった防災訓練に参加者が少なかったのです。多くの住民参加による防災訓練が必要で、防災意識を高めることが大事だと感じています。

実践報告者



畑中 実祐氏
王滝村
民生児童委員協議会

(大会資料P28-P31より引用)

木曾郡の民児協の現状と噴火

山また山の木曾谷です。南北約50km、南は岐阜県中津川市に、北は塩尻市に、東は駒ヶ岳を境とする伊那地方、西には岐阜県飛田高山、下呂、付知を境とする御嶽山に囲まれた高速道路も新幹線もない、唯一国道19号線とJR中央線が頼みとする秘境とも言つべき木曾谷です。したがって大きな災害などあれば孤立もありうるという防災上の課題もいくつかあるといつて過言ではありません。

人口は約2万8千人、1万五千五百世帯、高齢化率39.7%、委員は118人です。日頃の活動は広大な地域のため、それぞれの地区ごとに活動しています。特に木曾地域は山も急斜面が多く、南部地域においては砂山が目立つ災害もいつ何が起きるか分かりません。噴火あり、地震あり、土石流災害あり、その心がまえと備えは日頃から大切です。委員としても地域ごとのマップなどの制作はもとより、日頃の具体的な対策も欠かせません。災害時には行政と共に行動することもあります。

平成26年9月27日11時52分、御嶽山3067メートルは、眠りから覚めたように突然噴火、昭和53年以来的の大噴火です。その後2回ほど小噴火はありましたが、常日頃まったく考えていないでござりました。また同年の7月9日午前5時40分、木曾谷の最南端の南木曾町、妻籠で有名な町です。町内の梨子沢を中心とした豪雨災害が発生しました。この年には二つの自然災害が木曾谷を襲いました。

戦後最大級の噴火による大事故

御嶽山の大噴火では、当時王滝頂上山荘には150名余もの登山客がいました。多くがお昼に河口の淵でお昼を食べていました。11時52

分のことです。入道雲と勘違いする黒い雲がもくもくと湧き上がったのです。パレール大のものから大小無数の800〜1000度あるといわれる焼けた石が降り注いだのです。12時15分、剣ヶ峰で多数のけが人が出たと報告を受けました。27分、70人ほど大滝頂上へ避難。38分、多くのけが人と落石による足の切断者が出たと報告あり。41分、頂上山荘で成人男性の気管支に肺が入り意識不明の連絡が入りました。その後150余回に及び連絡報告があり、最終報告では死者57名、不明者6名。計63名となりました。

戦後最大級の噴火による事故でした。木曾町・王滝村在住者はいませんでした。

南木曾町梨子沢を中心とした土石流豪雨災害では人的被害は1名、軽傷者3名でした。時間あたりの雨量は70ミリ。避難対象者は673世帯1,645人で、建物被害は全壊16棟を含め44棟、JR、国道、県道、町道すべて一時通行止めとなりました。被害総額は約134万円と見込まれました。南木曾町民生児童委員19名も行政とともに安否確認を実施いたしました。

(中略)

4期務める中で私のモットーは「一人を大切にすることです。励まし続けて、共に歩むということ」です。日本は災害だらけです。御嶽山や南木曾の土砂災害もその中のひとつです。尊い命が失われるのが実に耐え難いと思ってやみません。



第2日目 シンポジウム

ディスカッション



信州の中山間地での災害の現状を探る

上野谷 まず簡単に自己紹介をお願いします。

篠崎 一昨年の11月に震災が起きました。皆様からのご支援に感謝します。私は民生児童委員になって2期目で、しかも当時は1年足らずでした。まだ経験が浅かったときに地震が起きました。

島田 震災当時、私は区長でした。3月で任期を終える準備をしていましたら地震となり、4月末まで任期を延期しました。自宅も半壊し、40日間避難所で生活をしました。民生児童委員としては二期目、5年目です。震災直後、民生児童委員2名が継続困難となり、その一人の後釜についたのです。家族みんな元気でおります。皆様に支援していただき感謝しています。

畑中 御嶽山のある王滝村は、312平方キロメートルという広大な地域に、人口は823人しか住んでいません。民生児童委員はたった6人。訪問する時間より車に乗って移動する時間の方が長い。道では人に行き合わずに猿ばかり(笑)。いまはまだ登れませんが、ぜひ御嶽山にみなさん来てください。

上野谷 みなさんのように、重い話を淡々と話していただくことは大事です。実際、どう委員として動いたのか、災害の実態と、暮らした実態から学びたいと思います。ではそれぞれ発表をお願いします。

※各実践報告4〜5ページ参照

マップや登録台帳の制作がいざという時役立つ

上野谷 素晴らしい発表をありがとうございます。まずマップや支援者登録など、事前準備が有効だったかどうか。それから白馬村では灯油タンクやプロパンガスの元栓を止めるなど冷静にできたのは事前に準備していたのでしょうか。

篠崎 災害マップについては、社協と一緒に取り組んでいきますので、関係者は作る段階で頭に入っています。当日実際マップを見て行動するわけではないです。ただし消防の人たちはマップを活用しています。課題は、都会からの移住者の連絡先が掴めていないということです。また県外の家族の連絡先についても家族の了解を得て作成していました。たまたま私は任期1年目でしっかり取り組んでいました。灯油タンクやガスの栓については、区長の自宅の被害が少なかったため、区長の冷静な判断で動くことができたのです。こうした活動は一人ではできないので、数人で話し合っ進めました。

上野谷 常に災害に備えておくということですね。畑中さん、委員の役割についてどう考えますか。

畑中 いざという時は、民生児童委員だけではなく、行政や社協の専門職などを連れて行かないと、被災者の体にもやみに触れられない。連携していくことですね。また橋や道路も寸断される可能性があり、車も電話もだめ、となると無線しか使えないということも頭に入れておく必要があります。

上野谷 栄村では民生児童委員が福祉委員を兼ねるといふことや、日頃から下駄履きヘルパーとして近隣住民がお年寄りを訪ねて熟知していたのですね。

島田 はいその通りです。夏場に下駄を履いてでもすぐ飛んでいけるという意味の名前です。下駄履きヘルパーで民生児童委員になった人もいます。冬場に積雪3、4メートルの中で、すぐ資格を持ったものが駆けつけられるので、有効な手段だと思います。現在は入所施設も充実してきて、少しずつその役割は減っていますが。

ケアの本質は配慮 哲学者の言うケアを体現

上野谷 まとめに入ります。畑中さんが二人

ひとりが大切なり」ということをおっしゃいましたが、同志社大学の精神でもあり、学生はその言葉が掲示された大学の入口の壁を見て教室に入らなければならないのです。

今日はみなさんから「命が失われるのを見て辛い」という言葉を聞いてはつとしました。委員自身も被災している中で何ができるのか。生活者の目線での気配りです。全体の状況を把握することも大事ですね。つまり、行政や専門職と日頃から連絡を取り合うこと。そしてやはり日頃からの近所付き合いですね。これは大都市では難しい。

哲学者メイヤロフの著書「ケアの本質」の中で、「配慮」と書いています。「相互関係」が大事で、対話による信頼関係を築くこと。そして「勇気と判断」がケアの本質とも言っています。栄村では、住民の波長に合わせて集落ごとに避難できたことが良かった。今回の3つの事例は哲学者が言っていることを体現してくれています。

日常的に相互に助けたり助けられたりる生活の中でしていただくことを村全体でやっていたことが重要です。多くの関係者が心を合わせて災害に備える準備をしていただくことが大切だと今日は学ばせていただきました。最後に一言ずつお願いします。

篠崎 2つお伝えたいと思います。1つは、民生児童委員同士の信頼できる関係づくり。2つ目は、地域内での仲間作りです。できる範囲でやっていきたいと思っています。

島田 人は、肩書きを持っていないと緊急時にすぐに行つてなにかしたくなる傾向にあります。災害時は自分も同じ被害者です。まず、自分と家族、次に住民の命を守るといふ形で対応していければと考えています。

畑中 亡父の大事にしていた孔子の「一人にして仁ならずんば、礼を如何せん」という言葉をみなさんに贈りたいと思います。心がなければ形をちゃんとしたところでどうなるのか。つまり、心があればパフォーマンスはいらぬ。

上野谷 素晴らしい。どうか委員のみなさん、民生児童委員を辞めないでください!!! 3〜4期やったら面白くなる、ここから勝負です。まだ次の数年後の研修でぜひお会いしましょう。今日はありがとうございました。

オレンジキャラバン



松代のオレンジキャラバンが認知症について寸劇で紹介しました。

コーラス



素敵な声のコーラス♥

長野市おもてなしピンナップ

もっとも大規模な長野市民児協の皆さん、2日間それぞれ担当に分かれて、会場作りや受付、入口でのお迎えなど、おもてなしをしました。写真でご紹介します。

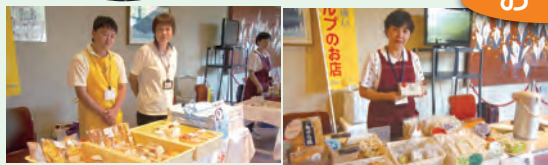
お出迎え



会場の入口でみなさんをお迎え

お店

ロビーの販売も人気!



参加者ピンナップ

参加した方たちに会場やロビーなどで記者がランダムにお会いしたみなさんに感想をうかがいました。

※コメントは各民児協を代表する意見ではなく、取材時インタビューさせていただいた方の個人的な意見です。



▼安曇野市民児協(三郷地区)のみなさん
3年の任期を終えてほっとしました。今回のテーマである災害について、地区の委員で行った仙台の視察では、報道とは違う被害の甚大さを目の当たりにし、復興の難しさも知りました。



▲小諸市民児協のみなさん
加藤長野市長のあいさつがよかったです。75歳以下はまだまだ若い。私たちも元気に地域を支えていきたいと思えます。

▲御代田市民児協のみなさん
軽井沢や立科の民児協と3町で毎年一回、交流会をやっています。ネットワークができて、活動の参考になっています。



▲東御市民児協のみなさん
私たち、よく頑張ってきたなと思います(笑)。大勢の仲間がいて心強かった。助け上手、助けられ上手という、上野谷先生の講演は印象的でした。



▲諏訪市民児協のみなさん
上野谷先生の講演がわかりやすくて良かったと思います。来年100周年ということで、民生委員の初期の歴史や役割についてよく調べて説明していただき関心しました。諏訪は女性の委員の活躍もあり、とてもまとまって活動ができています。



▲立科市民児協のみなさん
こうしたイベントは自分の地域だけでなく、他の地域の方と情報交換できるのがいいですね。北佐久の3町での情報交換会はとも良かったと思っています。



茅野市民児協のみなさん
委員として地域福祉の講演会があるなど、専門知識を勉強するいい機会となっています。自分から仕事を見つけていくことの大切さを学びました。



▲飯田市民児協のみなさん
昭和36年に飯田市は大きな災害を経験しました。マップも作成しています。今日の事例を参考に、自分たちの地域にあった活動を進めていきたいと思っています。



▲佐久市民児協のみなさん
活動を通して行政のことわかり、「かけはし」になることの大切さを実感しています。2期やってはじめていろいろなことがわかり、活動が見えてきました。



▲飯山市民児協のみなさん
阿部知事や加藤市長のあいさつが、ユニークで良かったと思います。今回の講演で日常的に悩んでいることが整理されて、しっくり胸に落ちました。楽しく明るく人と関わっていききたいと思えます。

受賞者インタビュー



代表受賞者写真：向かって左から、土屋委員、春日委員、宮原委員、吉澤委員、百瀬委員

各賞の受賞者の代表に記者が休憩時間などに取材した感想を紹介しします。

●永年勤続民児協会長表彰
春日和子さん (千曲市屋代地区民児協会長)

民生児童委員として6期、会長として3期。周りの人たちは動いているし、私は桃やぶどうなどの生産農家なので、畑と家の往復でした。50代から委員となり、地域の人たちの顔が見え、当事者が心を開いてくれたときは嬉しかった。県内にも人脈ができ、また介護など行政や社会の仕組みも学ぶことができました。

●永年勤続表彰
宮原清子さん (長野市第3地区民児協会長)

中心市街地の一人暮らしのお年寄りの見守りが中心で、昔から知っている方も多く、訪問すると喜ばれます。委員の活動を通して、長野市の中の大勢の人と関わりあえ、仲間も出来ました。経験を生かして、今後も福祉関係のボランティアを続けていきたいと思っています。

●優良単位民児協表彰
吉澤敏子さん (諏訪市湖南地区民児協副会長)

区民を対象に田辺地区で「おらたちの講話会」を開催しています。老いを楽しく生きる・人生・教育・子育てシリーズのCDによる著名人の講話を聞く会です。山間地の地区との交流や車の手配などさまざまな活動を行っています。委員の平均年齢も60代半ばと若く、研修や親睦で絆を深め、地区会でも活発な意見が交わされています。

●感謝
土屋一男さん (御代田町主任児童委員)

50代から主任児童委員を12年続けてきました。ひとり親家庭も多いので苦労しました。見守ることを基本に学校と情報交換をして、子どもたちの様子もい方向に変わってきたと思います。自分も家で家事をするようになって生活がわかりました(笑)。

●頌詞
百瀬弘さん (前県民児協及び前松本市民児協会長)

10期つとめてきました。今期は委員としての活動に加え、ご意見番として民児協全体の活動を見守ってきました。今回の大会では、県知事にも出席いただき民生児童委員の活動や取り巻く課題を共有できたと感じています。県や市町村ともきめ細かい情報交換をして、民生児童委員が働きやすい環境づくりを進めていってほしいと思います。

祝 県民児連会長表彰受賞

本大会において、次の方々に栄えある県民児連会長表彰が贈られました。長年の功労に敬意を表するとともに、心よりお祝いを申し上げます。

永年勤続民生児童委員(120名)

- | | | | |
|--|-----------------------------|--|---|
| 北佐久郡 (7名)
〔軽井沢町〕 土屋 和子
〔御代田町〕 土屋 一男
〔立科町〕 竹内 愛國 | 関口 順子
青木 富士枝 今井 稔子 竹重 幸江 | 更水 (2名)
〔信濃町〕 原山 公平
〔小川村〕 吉田 政喜 | 長野市 (26名)
宮原 清子 齊藤 和美 竹内 暁美 須田 莊一郎
稲田 徹子 徳竹 弘子 野口 佳年子 安藤 健一
関川 幸子 早川 美知子 山下 繁子 中澤 敏子
山岸 静子 岩下 秀雄 田村 トシ子 徳竹 貞夫 熊井 文弘
青木 達代 柳原 静子 官岡 千枝 中村 一幸 大日 方美代子
柳原 静子 傳田 恭司 小山 徳榮 高橋 千恵子 太田 眞由美 増澤 園子
伊藤 房代 西口 恵利子 土崎 紘子 新井 広子
市村 はる美 堀 美代子 辻 トメ子 大野 善章
上田市 (5名) 鷹野 良信 清水 哲彦 折井 弘一 宮下 千元 |
| 諏訪郡 (1名)
〔富士見町〕 小林 國廣 | | 松本市 (12名)
伊藤 房代 市村 はる美 鷹野 良信 中村 洋
土屋 敏雄 西野 武久 伊藤 力 官坂 正義 角田 正雄 小林 正明 丸山 寛文 窪田 雪江 保坂 明美 神戸 几壬代 山崎 博 大島 剛 上條 孝子 伊藤 義修 松嶋 隆徳 | |
| 上伊那郡 (4名)
〔辰野町〕 瀬戸 正幸 福島 とき江
〔飯島町〕 小池 幸平
〔宮田村〕 土方 照子 | | 上田市 (5名)
鷹野 良信 中村 洋 土屋 敏雄 西野 武久 伊藤 力 官坂 正義 角田 正雄 小林 正明 丸山 寛文 窪田 雪江 保坂 明美 神戸 几壬代 山崎 博 大島 剛 上條 孝子 伊藤 義修 松嶋 隆徳 | |
| 下伊那郡 (9名)
〔阿南町〕 平松 鉄雄 土屋 好文
〔阿智村〕 櫻井 明美 岡庭 久美江 熊谷 佳子 山口 美智子
〔壳木村〕 遠山 宜代
〔天龍村〕 金田 隆 坂本 芳子 | | 諏訪市 (2名) 官坂 正義
須坂市 (2名) 角田 正雄
伊那市 (2名) 小林 正明
中野市 (1名) 丸山 寛文
大町市 (1名) 窪田 雪江
飯山市 (1名) 保坂 明美
塩尻市 (2名) 神戸 几壬代
佐久市 (4名) 山崎 博
千曲市 (1名) 大島 剛
安曇野市 (9名) 上條 孝子 伊藤 義修 松嶋 隆徳 | |
| 木曾郡 (12名)
〔木曾町〕 林 俊雄 官下 育 櫻井 六左エ門
木村 保 上條 忍
〔上松町〕 佐野 明 荒岡 千代子
〔南木曾町〕 松川 不二子
〔大桑村〕 上田 恒美 横平 和子 佐藤 ちづる
前野 洋子 | | 須坂市 (2名) 角田 正雄
伊那市 (2名) 小林 正明
中野市 (1名) 丸山 寛文
大町市 (1名) 窪田 雪江
飯山市 (1名) 保坂 明美
塩尻市 (2名) 神戸 几壬代
佐久市 (4名) 山崎 博
千曲市 (1名) 大島 剛
安曇野市 (9名) 上條 孝子 伊藤 義修 松嶋 隆徳 | |
| 北安曇郡 (1名)
〔小谷村〕 深澤 順子 | | 須坂市 (2名) 角田 正雄
伊那市 (2名) 小林 正明
中野市 (1名) 丸山 寛文
大町市 (1名) 窪田 雪江
飯山市 (1名) 保坂 明美
塩尻市 (2名) 神戸 几壬代
佐久市 (4名) 山崎 博
千曲市 (1名) 大島 剛
安曇野市 (9名) 上條 孝子 伊藤 義修 松嶋 隆徳 | |
| 埴科 (2名)
〔坂城町〕 後藤 敏一 菱田 弘子 | | 須坂市 (2名) 角田 正雄
伊那市 (2名) 小林 正明
中野市 (1名) 丸山 寛文
大町市 (1名) 窪田 雪江
飯山市 (1名) 保坂 明美
塩尻市 (2名) 神戸 几壬代
佐久市 (4名) 山崎 博
千曲市 (1名) 大島 剛
安曇野市 (9名) 上條 孝子 伊藤 義修 松嶋 隆徳 | |
| 上高井郡 (2名)
〔小布施町〕 越 音策
〔高山村〕 松本 利昭 | | 須坂市 (2名) 角田 正雄
伊那市 (2名) 小林 正明
中野市 (1名) 丸山 寛文
大町市 (1名) 窪田 雪江
飯山市 (1名) 保坂 明美
塩尻市 (2名) 神戸 几壬代
佐久市 (4名) 山崎 博
千曲市 (1名) 大島 剛
安曇野市 (9名) 上條 孝子 伊藤 義修 松嶋 隆徳 | |

永年勤続民生児童委員協議会会長(16名)

- | | |
|---|--|
| 北佐久郡 (1名)
〔軽井沢町〕 櫻井 朝教 | |
| 長野市 (2名) 宮原 清子 中澤 敏子 | |
| 松本市 (1名) 大野 善章 | |
| 飯田市 (5名) 西野 武久 菅沼 輝美 清水 正則 椎名 佑平
山崎 博文 | |
| 小諸市 (1名) 望月 健一 | |
| 飯山市 (1名) 吉田 正紀 | |
| 塩尻市 (1名) 神戸 几壬代 | |
| 千曲市 (2名) 大島 剛 春日 和子 | |
| 安曇野市 (2名) 山田 守二 松嶋 隆徳 | |

優良単位民生児童委員協議会(4団体)

- 南佐久郡北相木村民生児童委員協議会
木曾郡王滝村民生児童委員協議会
諏訪市湖南地区民生児童委員協議会
中野市中野地区民生児童委員協議会

感謝(23名)

- | | |
|--|---|
| 井出 治雄 佐久市
榛葉 武夫 松川村
大日方 延男 須坂市
小林 峯雄 東御市
有賀 明三 岡谷市
山田 拓 高森町
藤原 孝秀 上松町
赤津 邦夫 塩尻市
中村 禮一 小川村
山田 知周 栄村
山田 明香 下諏訪町
佐野 幸代 中野市 | 須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市
須坂市 |
|--|---|

頌詞(1名)

- 百瀬 弘 松本市



編集委員

リレー日記

迷走しつづけた大型台風10号が東北・北海道に大きな災害の爪痕を残して去って行きました。大勢の方がお亡くなりになりご冥福をお祈りいたします。

幸い長野県内には大きな被害もなく快晴の中、長野県民生児童委員大会が9月1日2日と開催され在職4期以上の大勢の方が表彰されました。おめでとうございます。謝辞の中で高齢化に伴う課題だけでなく複合的、重層的な福祉課題への対応や災害時を想定した体制作りなどの取り組みが求められている。日々、地域の中で民生児童委員としての役割を精一杯果たしています。これまで築いてきた活動の取り組みを基礎として未来へバトンを繋いで行きたいと話しておられました。受け取ったバトンを身近な地域の中で「かけはし」としての役割を紡いで行きたいものです。

開催地であります長野市民児協の皆様さん、暑い中ほんとうにご苦労さまでした。

古川 友枝

編集委員 / 熊井 文弘・草深 邦子・古川 友枝・依田 宗夫